

脳神経外科医

新里 友美さん

しんと・ともみ
32歳
やぎ座 O型
志布志市松山町泰野出身



18歳	尚志館高校を卒業、長崎大学医学部に入学
24歳	同大卒業、医師免許取得。鹿児島大学病院で研修医になる
26歳	同大病院の脳神経外科医局に入局
31歳	びろうの樹脳神経外科（志布志市）に勤務。専門医に認定される

- ・2人の娘のママで、休日は一緒におまごごとを楽しむ
- ・大学時代は陸上部に所属し、長距離選手だった。現在は妊娠中で、たまにウォーキングをする

体全体の司令塔を守る



手術中は集中力が必要。後方には脳の状態を映すモニターも

↑志布志市のびろうの樹脳神経外科

ボルが、自分に向かって急に飛んできたらどうしますか、よめますか。キマッテしようと思えるものもあるかもしれませんが、このように、外からの情報を読み取って、どう動くか命を懸けているのが脳です。体全体の司令塔の役割を果たしています。行動に移さなくても、脳の働きによるものです。

脳が傷つくとき、体かびれたり、言葉がうまく出せなくなってしまうます。ダメージを最小限に抑えるのが、脳神経外科医の使命です。ちなみに、脳は左右に分かれていて、右利きの人は左脳を使うので、左側を傷つくと右メーンがより大きくなってしまいます。

「頭痛がひどい」「力が入らない」。診察、患者さんは症状訴えます。私たちが聞き取りながら、脳に何が起きているかを想定します。その後、検査で脳の状態を画像にして診断。どのような病気か、きちんと把握するとはもちろん、別の病気が隠れているケースもあります。見逃さないことが大切です。

重症で緊急度が高い手術です。メーンとなる医師を中心に、医師や看護師、何人も立ち会います。まずは頭がけ帽や、すぐ下にある硬膜を切ります。次に、問題のある部分を見ていくのですが、脳の血管は、どのくらい太さかっていますか？太めでも3、4ミリ、1ミリ以下もあります。医師は、大型顕微鏡を見ながら手を動かすこととなります。血管と血管を目に見えない糸の糸がつなぎ合わさるに、専用クリップでとめられます。

手術の場以外を強力触らないことも大切で、一日かりになることも、細かい作業だけに、手術で使う道具は、小型

のはさみや針数多くあります。クリップもこの形状に合わせたものが必要になるので、種類は数え切れません。また、手術中は張り詰めた空気が流れています。落ち着いてくるよう、かきかき音で音楽を流す病院もあります。

脳の病気を、命を落とさず、小さいかならない一方、治療後にリハビリを続けることとて、目に見えず良くなる人もいます。研修医時代、こうした姿を見て尋を味わたり、簡単な手術に携わって面白みを感じたことが決め手となって、脳神経外科に進みました。

この時、鹿児島大学病院の脳神経外科に進んだ友美さんは、1期生でした。現在計6人がそれぞれ腕を磨いています。近年、頭を切らずに、足の血管から脳へ、細い管（カテーテル）を通す治療法も進んでいます。日々勉強で、私を取り組もうと思っています。

① 頭を開く

② 硬膜を切る

③ 血管を切る

④ 手術器具を使う

⑤ 手術終了

⑥ 患者を運ぶ

もっと知りたい

〈進路〉大学の医学部医学科で学ぶ。多くは卒業の年に国家試験を受け、合格したら医師免許を取得。2年間の研修医を経て、希望する診療科に進む。脳神経外科の専門医は、日本脳神経外科学会が認定する資格。試験は筆記と口頭。

〈勤務〉原則午前9時から午後5時だが、急患もある。勤務先は大学病院から派遣され、鹿児島市の自宅から週3日通勤。主な仕事は、入院患者の手術前後を含めた全身管理で、外来や検査、手術も担当。

南日本子ども新聞

家族みんなのびろうの樹脳神経外科

楽しく読もう